

令和3年度 葛飾区学力調査（4年生）結果の分析

【国語】

- 「言葉・情報・言語・文化」では、区の平均をわずかに上回ることができた。その中でも、「漢字の書き」の単元では、区の平均を8ポイント以上上回っており、漢字を正しく覚えて書く技能が身に付いているといえる。しかし、ローマ字に関する「言葉の特徴や使い方」の単元では、区の平均を5ポイント下回る結果となっており、ローマ字を繰り返し指導し、定着できるよう指導を続けていくことが必要である。
- 「話すこと・聞くこと」では、おおむね正答率が高かった。けれども、話を聞いて「発表の工夫を選ぶ」という問題では、正答率が32.9%と低い数値だった。この問題は区の平均も低い数値であった。今の児童の傾向として「伝わるように工夫する」力が不足していると考えられる。タブレットの活用等で発表の工夫は今後様々な方法が用いられるようになる。場に適した方法を選べるよう考えさせたい。
- 「読むこと」では、区の平均を3ポイント上回ることができた。また、その中でも「説明的な文章」の単元では、区の平均を8ポイント近く上回っており、説明文の読み取りの力が身に付いていることが伺える。しかし、「文学的な文章」の単元では、区の平均を下回っている。このことから、場面と状況から登場人物の心情を読み取るということに課題があると考えられる。文学的な文章を読む際には、常に登場人物の心情を想像しながら文章を読むことができるように今後も指導を行っていく。
- ▲「書くこと」では、空欄を埋める問題や文を書き加える問題では、全体の1/4の児童は正答率が80%以上である一方、半数の児童は正答率が30%以下と差が大きく開いていた。語彙を増やすために読書を行ったり、書く活動を他教科でも多く取り入れたりして力を伸ばしていく必要がある。

【算数】

- 「知識・技能」「思考・判断・表現」の両観点において、区の平均を6ポイント以上上回る結果となった。
- 「数と計算」では、平均正答率が全国や区よりも上回った。四則計算、分数や小数の計算について前学年までの知識・技能が身に付いている。
- 「図形」でも、平均正答率が全国や区よりも上回った。平面図形・円と球の性質について理解できている。ものさしとコンパスを用いた作図の技能も身に付いていると考えられる。
- ▲「測定」では、平均正答率が区は上回ったものの全国よりもわずかに下回った。長さや重さの単位の間接的な関係を的確に捉えることができるように、継続して指導していく必要がある。
- ▲「データの活用」では、平均正答率が80%を超えているが、全国や区よりも2～5ポイント下回った。様々な観点から棒グラフを読み取ることに課題がある。データを正確に読み取る力を付けていくと共に、聞かれていることを正しく捉え、確実に理解できるように今後も指導を重ねていく。